

「礼拝堂の土足化」というテーマについて、それぞれの立場から活発に意見を出してくださっていることを感謝いたします。すばらしい会堂が私たちに与えられていることを感謝し、大切に用いつつ、この会堂が主の栄光のために用いられることを願って取り組んでいきましょう。

1. まず、土足化の問題は教会の本質に関わる問題ではないことをふまえておきましょう。これは最終的にどちらを選択しても良い問題です。大事なことは会堂ではなく、教会の目的にそった働きであり、建物があることがそれを制限することがないよう気をつけたいと思います。もう一つは異なる意見に耳を傾けることです。そこに教会の成熟度が表れます。私たちは見える会堂の話をしなが、目に見えないキリストのからだである教会を建てあげているのです。
2. 私たちには一人一人様々な視点があり、それぞれが価値を置くところは異なります。お互いに耳を傾けると、大切に思っていたことにも別の点が見えてきます。たとえば衛生面についての対話で、土足にしてもスリッパ・上履きにしてもどちらも衛生面の問題は残ることがわかりました。また交わりの面でも靴を脱いでほっとする人もいれば、靴を脱ぐことに気持ちの壁を感じ、共有スリッパが気になる人もおられるようです。そのように、経済の必要、会堂の使い方また美観を保つことなど、それぞれに様々な考え方があります。そのような中で執事会として「スリッパでの緊急時の避難対応は難しいために土足化を検討せざるを得ない」と考えているということです。教会としての責任から、この点の重要性もご理解いただけるでしょう。
3. この問題はかつて会堂建築の重要な論点でしたが、現在は新たな会堂建築は圧倒的に土足仕様のようです。また多くの教会がスリッパから土足仕様にリフォームしています。おそらく私たちが新たな会堂を建てる場合も土足になる可能性は高いのではないのでしょうか。私たちの議論は現在のスリッパ仕様が前提ですので、質問では土足化のもたらす課題が多くあがるのは当然ですし、変化とそれに伴う様々な面での負担が一番の課題なのではないかと思います。
4. 私たちの多くはおそらくどちらでも対応できると思います。土足の教会に行っても違和感を感じないでしょうし、スリッパにも慣れていますが、だからこそ私たちがあえて意識して目を向けたいことは、そのような私たちの中に現実に不自由を感じられる方がおられ、災害時や階段の昇降に危険度の高い方々がおられるということです。それが僅かであっても、弱さを覚える方々に目を向けることは教会の本質です。その人が自己責任で対処すれば良いという考え方はふさわしくありません。高齢や身体のハンディキャップのある方々が安全に会堂を使うことができ、また教会に来づらい方々が感じておられる見えない壁を除きたいと思います。
5. 私自身の意見は、土足かスリッパ・上履きかの二者択一ではなく、むしろそれぞれの良い点を活かして、土足にふさわしいところは土足、スリッパ・上履きにふさわしいところはそれが良いのではと思います。玄関一階段一礼拝堂のラインを土足にするだけで安全度は高まります。ちなみに今回調べた中に、通常はスリッパで、冠婚葬祭の時には土足としている教会もあります。それでも十分な清潔度を保っているとのこと（専門サイトによれば、マットを正しく使用するならマット上の4～5歩で靴底の90%の水分や埃はとれるそうです）。また、私は土足用の靴を上履きとして使っていますが、スリッパと段違いに温かいことに気がつきました。いろいろとやってみると新しい発見をします。主が最善の答えを準備しておられます。